



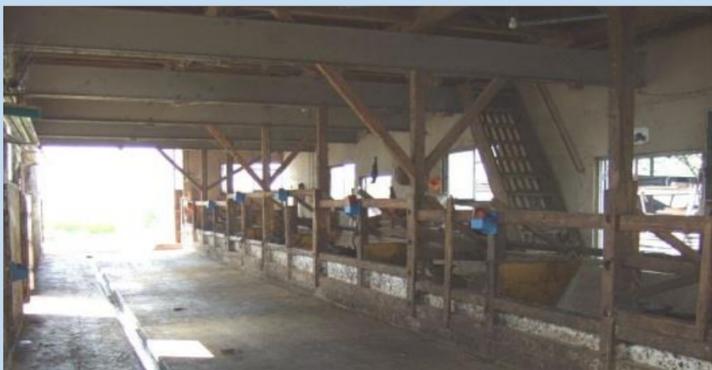
牛舎消毒、しませんか？

清掃・消毒が不十分な環境では、下痢や呼吸器病等のリスクが高まります。子牛の良好な発育を確保するため、飼養管理のほか、牛舎環境にも目を向けてみましょう。

夏季は牛を屋外に出しやすく、消毒後の乾燥が早いいため、牛舎消毒の適期です。改めて消毒手順をおさらいしましょう。

牛舎消毒(石灰消毒)の手順

1 移動・搬出



- 牛を牛舎外へ移動
- 敷料や残飼もすべて取り除く

2 清掃



- 壁や柱にこびりついた汚れ(糞など)を、スクレーパーなどでしっかり落とす
- ※できれば天井のクモの巣や換気扇も

石灰消毒の前に出来る限り汚れを落としておくことで、消毒効果が高まります。

動力噴霧器による洗浄は、困難な場合は割愛してOKです。

(3) 洗浄

動力噴霧器等により、**高圧で洗浄**することにより、スキマや溝の汚れを徹底的に取り除く(洗浄後は洗浄水をかき出し、**乾燥**させる)

4 消毒(石灰塗布)

• **ドロマイト石灰**を水に溶かした「**石灰乳**」を、ブラシ等(洗車ブラシ、刷毛、ペイントローラーなど)で壁や柵、牛床に塗布する

• 半日から1日程度おいて**乾燥**させた後、牛を戻す

• 強アルカリによる消毒効果のほか、石灰乳による**封じ込め効果**が期待できます

石灰乳は強アルカリのため、塗布作業時は手袋・マスク・ゴーグルを着用しましょう



牛舎内が明るくなり、牛がよく見えるようになりました！

塗布完了

石灰で塗り固めて病原体の動きを封じる



「石灰乳による封じ込め」？

石灰消毒は、清掃・洗浄で汚れを除去しきれなくとも、上から**石灰乳**を塗布することで、**病原体の封じ込め効果**が期待できることが利点です！

スキマ等、汚れの残る部分には意識して厚めに塗りましょう！

塗装用スプレーガンの活用



エアーコンプレッサーと塗装用スプレーガンを活用すると、ブラシ等による手塗りより効率的に塗布が可能です。

写真：R6.6.28牛舎消毒研修（洋野町）

Q 消毒の**頻度**は？
消毒効果はどれくらいもつのか？



受講者

「汚れたらやる」が理想ですが、**1年に1回**は実施できれば良いですね。

石灰は、水と混ざった「**石灰乳**」の状態**で消毒効果(強アルカリ)を示します**。石灰乳が乾燥した状態では既に消毒効果は無く、ペンキと変わりありません。「封じ込め」や「明るく見える」効果のみです。

次回の消毒の際には、**石灰の上に付着した汚れを除去**（清掃）していただき、その上からまた石灰乳を塗布するようにしましょう。



講師

《子牛を大きく育てよう！》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

マニュアルのダウンロードはこちら→



○ 分娩直後の子牛の処置について

1. 正常分娩が一番

正常な分娩であれば、人間の介助は必要ありません。自然に娩出される場合、娩出途中で自発呼吸は確認できますし、娩出後は臍帯も自然に断裂します。

分娩介助を行った場合、まずは**自発呼吸**を促しましょう。



2. 子牛のマッサージ・乾燥

呼吸が確認出来たら、母牛が子牛を舐める行動（リッキング）を誘導します。リッキングは**マッサージ効果**があり、血液循環や排便のほか**初乳の吸い付きを良くする**のに重要な行動です。

冬場の分娩では特にタオル等でしっかりと拭いて牛体を乾燥させましょう。



カーフウォーマー

3. へそ（臍帯）の消毒

臍帯炎予防のため、**消毒液**で臍帯を消毒しましょう。切除する場合は**5cm程度**が目安。

臍帯が乾くまではこまめに敷料を交換し、子牛の乾燥状態を維持しましょう。



4. 初乳の摂取・給与

牛は、初乳を摂取することで免疫機能を獲得できます。免疫機能が無いことは病原体に対して無防備な状態となりますので、**分娩後6時間以内の摂取**を心がけ、必要に応じて初乳製剤を使用しましょう。

5. その他（生理的貧血予防）

黒毛和種の子牛は生後1ヶ月の増体率が高いため、生理的な貧血に陥り、発育停滞が生じることがあります。

生後3～5日齢の間に**鉄+ビタミンAD₃E**製剤を投与することで貧血の予防になります。